

1 開 会

2 事務局挨拶

3 議 事

(1) 宇陀市立小・中学校の適正化の具体的な在り方について

(2) 宇陀市立小・中学校の適正化により充実を期待する教育内容について

ア 事務局による説明

○前回依頼した、第9回適正化推進委員会に向けての小・中学校の適正化の具体的な在り方と適正化により充実を期待する教育内容について、事前に送付していただいた意見について確認。

○適正化の具体的な在り方について検討する時は、まずイの案が基本であるということを確認。

イ 議事に対する委員の意見等

・今回9回目の予定では、今回含めて残り2回で、一定の答申を返すというところになるので、今日は内容を深めつつも、案を固めたい。

・いろいろな方の意見を聞いて、できるだけ今ある施設を残しながら、教育とか地域のために、いろいろな形で使っていけたらと思う。

・学校自体は統合していくけれども、校舎の活用みたいなどころまで、少しこの答申の中に残すことによって、今後、このあと続いていく個別の地域の協議会にもつなげていければというふうに感じている。

・人数が減ると複式学級というところがものすごく引っかかっている。いろいろ聞いている中では、やっぱり避けたいよなっていう意見がある。

・複式学級的なことを導入している小学校があって、それで教育がとてもうまくいっている例もたくさんある。

・小中一貫っていうよりも、小中連携する方が、先生や保護者、生徒たちが連携、繋がっていく、なんかそういうことを大切にしていけば、自然と小中一貫校みたいな学校になるのではないかと思う。

・既存の施設を安易に廃止というような形にするのではなくて、例えば地域の特色であったりとか学校に行きにくい子供の受け皿、例えばオルタナティブスクールであったりとか、そのような活用を考えたい。

・小中一貫にする時に、ただくっつけるということではなくて、本当にどういう学校にするかということもしっかり考えて、慎重にしていかなければいけないと思う。

・宇陀市の学校教育制度そのものが面白いということが、人口の減少を食い止めたり、逆にそういう学校教育制度をやっているということで、人もいっぱい集まってきたりするのは。

・全体にどういう教育を目指すのかが決まってないのに、学校の施設の数とか決めるっていうのは、なかなか議論として難しいなと思う。

・ファシリティマネジメントということ、十分考える必要がある。施設は年々老朽化していく。そのことも検討しないとけないと思う。

・地域に学校を残す残さないという話について、小学校が仮にどこかに統合しても、子どもは家に帰ってくるので、地域が廃れるとかそういうことはまだないと思う。できたら、施設は一つでやってもらう方がいいかと思う。

- ・コミュニティスクールもそうだし、大人の方々の学び直しなんかも含めて、ぜひとも地域と学校との結びつきについてもしっかり答申に残していければと思う。
- ・答申案を市の方に提出するにあたっては、市の教育指導方針等々、一度一読した中で、作成したらどうかと思う。指導方針に書いている内容を同じように出しているのでは、何をしているのかってなるので。
- ・エストニアの教育を特色にするのもよいが、そういったものをトータルで、より宇陀市として魅力のあるような、楽しみのあるような学校教育としていけるような答申にしていきたい。
- ・教育内容の部分を先にどんどん議論していければ。器よりも内容を先に進めていって器ができたんだっていうようになればと思う。
- ・特色のある教育内容でいくと、STEAM教育と言われてる、科学技術、工学、芸術、数学、特にやっぱりITという要素は、先ほどのエストニアの話も含めて、かなり重要になってくるのかなと思う。
- ・今から14年の合併を考えるのであれば、例えば修学旅行や各種授業とかを事前に連携して行って、なるべくソフトランディングで合併させてあげたい。
- ・対話を通した教育を日本一世界一進めていくということも、こども園とも連携してもらえたらと思う。
- ・何年かに1回見直すタイミングっていうのを作ったほうがいいと思う。予想通り減っていくかどうか微妙であるので、何年後かに1回は検討し直すというタイミングを作ったほうがいいかと思う。
- ・地域はやっぱり尊重していきたいと思うんで、地域別の学校をひっつけたいと思っているのに、残せというのは押し付けたくはない。
- ・学校選択制を絶対入れないといけないと思う。例えば、この学校やったら行けそうかもっていう意味での学校選択制は絶対入れたほうがいいと思う。
- ・14年に榛原の学校を一つにするんだったら、9年から10年に、事前に一つにしてしまうという選択もどうかかなとは思っている。
- ・幼稚園の時に統合を経験している児童がいるので、まず令和9年だけはやめてほしいというのとともに、なるべく一緒に合併してあげて、なるべく早く文化ができるような状況を作ってほしい。
- ・適正化のスタート時期を10年にしたらどうか。今から5年間の間に、住民に周知徹底をする。

○委員長まとめ

- ・第10回の進行状況を見て、12月にもう一度推進委員会を開催し、2回の中で答申案を確定させる。
- ・次回、本日の推進委員会の内容を受けて、適正化により充実を期待する教育内容については、事務局が作成した答申案を確認する。
- ・適正化の具体的な在り方については、適正化の時期について、令和9年と令和10年のどちらで開始するかを議論しつつ、事務局が作成した答申案を検討する。

4 連絡事項

- ・次回の第10回宇陀市学校適正化推進委員会は令和5年10月12日(木)18時から宇陀市役所4階大会議室で開催予定。

5 閉 会